

東京都退職校長会



会報

発行所 東京都退職校長会
発行者 多田 丈夫

〒113-0034 文京区湯島4-12-3 日公連鈴木ビル5F
電話 03-5814-5615

東京都退職校長会ホームページ <http://www15.ocn.ne.jp/~totaikou/>

明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては健康やかな新年をお迎えのことと存じます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



東京都退職校長会 会長 多田 丈夫

乾坤一擲、新しい風を
— 結束を強める年に —

さて、年末に世相を表す「文字が「北」と披露されました。物騒で混迷する社会をよく表し、人々がどこにパラダイム(座標軸)を置いたらよいのか悩んだ一年でした。今年は戊戌の年。「犬も歩けば棒に当たる」と小学生時代、いの一歩に習った江戸かるたの故事。真逆の説もありますが「油断せず積極的に行動すると思わぬ幸運に出会う」の解釈を採用したい気分です。そして、末永く、世界の安寧と平和を願うばかりです。

★脚下照顧 まもなく「会則改正(案)」が皆様のお手元に届きます。教育フォーラムでのパブリック・コメント、各支部へのアンケート調査、支部長会での意見交換、作業部会での論点整理も終り、いよいよ檜舞台の幕開けです。まさに、脚下照顧。本会の歴史と伝統を堅持し、「こんな場所は、世界に二つとない」とこんな不思議な場所をほかにない」と皆様に言わしめる会則を定めます。一千万人を超える大都会東京にあつて、心を通わせ、誰もが幸せに思う「入会率100%」の新しい風の吹く心地よい居場所を創る決意です。今こそ、勇気と謙

虚さをもって本会の磐石な組織づくりに奔走します。

★一期一会 日々、(への世の不思議の出会い)を感じながら仕事をしていきます。特に、熱意溢れる「支部だより」や広く活躍する会員の皆様から多くの刺激をいただいています。さて、今年は10年に一度の関プロ東京大会の年。去る、11月21日に中井敬三東京都教育委員会教育長を表敬訪問し、迫る東京大会へのご臨席を要請しました。実行委員会では、時代の一歩先を行く本会の姿を吐露しようとして準備に拍車がかかります。まさに、一期一会。出会いは一生に一度の宝物、今年も主客ともに諸事万端整え、役員一丸

となつて新たな決意で業務に全力を尽くします。

★無信不立 この頃(人生100年時代)という活字が躍っています。人口の27.7%が65歳以上という超高齢化社会を見据えた時、60歳定年は若すぎます。ここ一番、隠居どころでなく、長い定年後の生き方・在り方を真剣に模索しなければなりません。同時に、「働き方改革」が叫ばれている昨今。一過性でなく、男女とも多様な働き方を可能とする人材活用の総合的な施策の検討が求められます。また、本会の会則改正に伴い、今年是将来の我々の組織を背負って立つ各校種の現職校長会への働きかけを強め、具体的な支援をいたします。さらに、改訂学習

指導要領の本格実施に向けて汗を流している現職を「信なくば立たず」の心で応援します。

★結びに 今年で8年目を迎えた都人材バンク事業と5年目を迎えた採用前実践的指導力養成講座の二つの委託事業も順調で、延べ一六四〇名近い会員の皆様有意欲的に活躍しています。感謝の一言です。これらの事業を明日の人づくりのためと画期的な改革を進めた「米百俵の精神」に重ねながら、引き続き、求められる存在として都教委との連携を強めます。会員の皆様の広い心と豊かな歩みを期待し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

主な記事

- P1 巻頭言 会長挨拶
- P2 採用前実践的指導力養成講座報告
- P4 第二回会員研修会報告
- P5 教育長表敬訪問
- P6 第46回関東甲信越地区退職校長会連絡協議会新潟大会の報告
- P7 業務改善・基金検討委員会「作業部会」からの報告
- P8 入会のお勧め
- P9 平成29年秋の叙勲受章会員、湯島の動静
- P10 支部だより
- P13 米寿会員の声
- P15 東京都教職員物故者追悼式について
- P16 物故者、応募コーナー編集後記

採用前実践的指導力養成講座報告

採用前研修事業受託委員会 桑原 利夫

東京都教育委員会から委託された本講座は、今年で五回目となる。新規採用教員が来年度も二五〇〇名を超える見込みである。「夢」と「希望」を抱いて教壇に立つ予定の採用予定者対象の本講座は、理論と実践の両面から実践的に学ばせる「直前研修」である。コンパクトで分かりやすい研修内容を用意し採用予定者が学校生活に具体的なイメージと見通しをもち、四月スタート時に自信をもって教職生活を送れることを願っての企画である。

研修日程は二日間。一日目は全体講座研修である。都教委が主体の理論研修であり、「実践的に学ぶ学習指導・学級経営」「実践的に学ぶ特別支援教育」「東京都が抱える主な教育課題」等について講師の話の聞いたり課題を設定されてのグループ

討議をしたりして学ぶスタイルである。二日目は、採用予定者が校種別に都内公立学校訪問校（都内小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の中から、本事業の趣旨を理解し、学校訪問の機会を提供してくれた学校。今年度は小：六五校、中：四二校、高：三〇校、特：二〇校の合計一五七校）に向いて一日学校体験研修を行うものである。この学校体験研修を充実した過ごし方となるよう採用予定者を組編成（一組のMAX：一〇名）で訪問させ、それぞれに指導講師二名を配置し研修内容に応じた助言指導、解説指導、協議会でのコーディネート役を務めてもらうものである。したがって指導講師の数は二名×一五七校＝三一四名（延べ人数）が必要となる。都教育委員会は、この指導講師数の多さと

講師の適格性を考慮し、都退職校長会の組織力・実行力・会員数の多さ等に着眼して事業委託してきたものである。この指導講師には、初年度から毎年快諾して冬の寒さをものともせず若い後輩を鍛えてあげようという誠意溢れる会員各氏が多数存在して嬉しい限りである。

本事業を受託した都退職校長会では、本部として「採用前研修事業受託委員会」を次のメンバーで組織し運営することにした。

- ・委員長 多田 丈夫（会長）
- ・事務局付委員 藤井 誠一
- ・小学校（※校種別責任者）
- ※桑原 利夫 阿久津州美男
- 塚野 征
- ・中学校
- ※宇津木順一 前田 烈
- 工藤 豊太
- ・高等学校
- 平島 満 ※澤海 富保
- ・特別支援学校
- ※落合 勇 小林 進

そして、本年度の本事業を所管する都教委（都教職員研修センター担当者）と七月から定期的な会合を重ね、研修実施までの諸準備が遺漏の無いよう万全を期して進めてきた。

この準備の中でも、採用予定者数と学校訪問校数が判明してから、わずか二週間余の期間内に都退職校長会会員の中から指導講師を小学校一三〇名、中学校八四名、高等学校六〇名、特別支援学校四〇名、計三一四名を探す作業は至難である。

そこで、今年度も10月23日（月）の第二回支部長会で各支部長諸氏に第一次の指導講師探しの協力を依頼することにした。支部長諸氏も本事業の趣旨をご理解くださり、快く推薦作業に努めていただけた。支部長諸氏のご努力に改めて、本部として心より感謝申し上げる次第である。それでも、例年のことであるが指導講師数の多い小・中学校においては必要数に満たないため、未決の学校の指導講師探し

は本部対応となった。担当者の個人的な人脈を頼りに会員の中からピックアップして個人交渉し、なんとか予定数をクリアできて安堵している。

この準備作業と並行して講師用『指導ガイドブック』改訂作業にも取り組んだ。このガイドブック作成の意図は、新しく指導講師を引受けていただいた方でも本事業が具体的に理解できるように職務内容を時系列で明確化し、それぞれの配慮事項、採用予定者への指導のポイント等を示したものである。ハンディーかつ読みやすさに配慮しての編集を心がけている。参考資料として活用いただけるものと確信している。

この改訂作業委員会には、以下のメンバーが携わった。

- 講師用「指導ガイドブック」改訂委員会 (※責任者)
- ・委員長 多田 丈夫 (会長)
- ・委員 ※桑原 利夫
- 宇津木順一

落合 勇
澤海 富保

以上のような準備のもと、都研修センターを会場に11月20日(月)・22日(水)午後3時～4時15分(4時15分～5時は各校種別講師打ち合わせ)の計画で全指導講師を対象に本講座の事前説明会を都教委主催で行った。

○全体会

(1)挨拶 都研修センター研修部 授業力向上課
課長 堀田 直樹

都退職校長会
会長 多田 丈夫

(2)事業の概要について
都研修センター研修部 授業力向上課
統括指導主事 小坂橋 悦子

(3)講師の授業内容について
都退職校長会

(1)業務の留意事項について
運営委員 宇津木順一

(2)講師用「指導ガイドブック」

の活用について

(4)当日の運営の実際について
都研修センター研修部 授業力向上課
指導主事 橋本 修

○各校種別講師打ち合わせ
全指導講師が本講座の趣旨等を理解した上で、左記の日程で今年度の実質的な研修が開始された。

〈Aコース〉

12月10日(日) 全体講座
(講義・演習)
午前10時～

帝京平成大学沖永ホール
12月11日(月) 学校体験研修
(授業参観等、都内公立学校)
午前8時30分～

〈Bコース〉
12月17日(日) 全体講座
(講義・演習)
午前10時～

帝京平成大学沖永ホール
12月18日(月) 学校体験研修

(授業参観等、都内公立学校)
午前8時30分～

〈Cコース〉

1月14日(日) 全体講座
(講義・演習)
午前10時～

帝京平成大学沖永ホール
1月15日(月) 学校体験研修
(授業参観等 都内公立学校)
午前8時30分～

本講座終了後に、採用予定者の感想が寄せられた。
「子どもたちの姿をこの時期に見られ、四月からスタートのイメージがもててよかった。」
「指導講師の各ポイントでのアドバイスが分かりやすかった。」

等々、本講座実施の手応えが実感でき、運営本部委員としても満足感に浸っている。

そして、改めて本講座に対し都退職校長会会員の皆様の後進指導への熱意と温かいご協力に感謝申し上げます。

平成二十九年度第二回会員研修会報告
「生き生き人生を目指して」

生涯学習部

健康で豊かな人生を歩もう！

平成二十九年十一月二十二日
(水)の午後一時三十分から、
本年度の第二回会員研修会を鈴
木日退連共同ビル三階で実施し
ました。少し狭い会場でしたが
開会前には、会員で満席になり
ました。

以下研修会の概要をご報告し
ます。

一・開会の言葉

生涯学習部長

二・会長挨拶・発表支部紹介

多田会長が当日、採用前実践
的指導講座の事前説明会に参加
したため欠席されましたので、
藤崎副会長から会長のメッセー
ジが代読されました。

『本年度のスローガンに向けて、
支部の活動の成果を発表される
各支部に感謝いたします。』



藤崎副会長

生涯学習部は、会員研修に力
を入れていきます。第一回には、
渡辺先生に講演をしていただき
ました。今後も会員の研修に力
を入れていく所存です。』

三・各支部の発表

※()内発表者

◆大田支部

(天野正忠・尾形正幸)

大田支部は、サブテーマ「元
気で長生きしたいという思いや
願いを込めた健康づくり」とし
て発表しました。

初めに、健康づくりに向けて
「健康料理」や人生の節目には
①社会の節目、②生活の節目、
③自然の節目があることについ
ての説明がありました。また、
体の筋肉を鍛えることが大切だ
とのことです。

次に、平成二十九年度の大田
支部の現状として、クラブ活動
の様子が述べられました。その
中で、①好奇心をもって学ぶ、
②弱りがちな足腰を鍛える、③
親睦を深めることを心掛けて活

動しているそうです。

最後に、歴史散歩クラブの詳
しい内容と支部の特徴ある活動
の紹介がありました。

特徴ある活動として、①大田
区少年少女発明クラブへの支援
②学校教育への支援、③地域活
動への支援、④夏季休業中の課
題への支援

以上のように健康づくりを中
心に、学校や地域に向けて生き
生きと活動していることが分か
りました。



大田支部

◆練馬支部

(柴和一・富岡義光)

初めに、テーマに関連すると
考えられる支部の活動から「写
真クラブの活動を通して」具体
的に発表することの説明があり
ました。

スクリーンに活動の様子の写
真を写しながら、下記のように
テーマの「生き生き人生を目指
して」に迫る発表をしました。



練馬支部

(1)撮影会

年に6回の撮影会を行い、
撮影終了後には、必ず昼食会
をして撮影の反省や写真談義
をする中で、撮影技術と意欲
を高めている。また、情報交
換や会員の親睦にも役立つて
いる。

(2)作品検討会

年に4回の作品検討会を開
いて、ひとつひとつの作品に
ついての良い点や課題につい
て検討して写真技術を磨いて
いる。

(3)写真展

毎年3月には、一年間の集
大成として写真展を開催して
いる。そして、写真展初日に
は、講師を招いて講評してい
ただき、写真の基本的な勉強
や次への撮影意欲を盛り上げ
ている。

(4)写真集の作成

十年前には、念願の『共に

歩みて』という写真集を作成した。

以上のような発表を通して、退職後の人生をただ漠然と生きているのではなく、何か目的をもって仲間と一緒に活動することが「生き生き人生」につながるのではないかとの提言がありました。

◆杉並支部

(井口茂・川端啓三)

まず、ビデオ映像を通して、「ラジオ体操」や「コーラス」を楽しんでいる会員の様子が紹介されました。

次に、支部の活動の実態が詳しく発表されました。

(1)会員の減少により苦勞しているが、活動内容の改善によって頑張っている。

(2)杉並区にある三つの団体で話し合い、共催できる事業は共同して行っている。

(3)今後の方策

・会員に役立つ研修会を導入したり、予算規模を縮小する等の予算面の改善をする。

・杉並支部で取り組んでいる「理事会前の研修」や低学年の学習でつまづく『九歳の



杉並支部

壁』説明を図り、寺子屋での実践に取り組む。

最後に、今までの研修会の内容についての発表がありました。

続いて、「英語と私」という題目で次のようなお話がありました。

初めに、発表者の英語での自己紹介があり、これには参加者もびっくりしたようです。

次に、英語教育の過去・現在・未来について、学習指導要領の改訂を通しての説明がありました。また、語学学習の「コツ」についての話の後に、実際に英語の演習を発表者の指導で行いました。久しぶりの英語学習には、会員の皆さんも苦勞していたようです。

各支部の発表後、質疑応答を

行いましたが、時間が少なく三名の発表で終了しました。

四、謝辞

藤崎武利副会長

三支部の素晴らしい発表ありがとうございました。大田支部の発表では、進んで学校や地域に奉仕している会員の姿が目に見えます。練馬支部では、写真集がすばらしいですね。また、

目的をもって仲間と共に活動することの大切さがよく分かりました。杉並支部では、ラジオ体操やコーラスを楽しんでいるのがいいです。これからも、生き生き人生を目指したいものです。

ね。

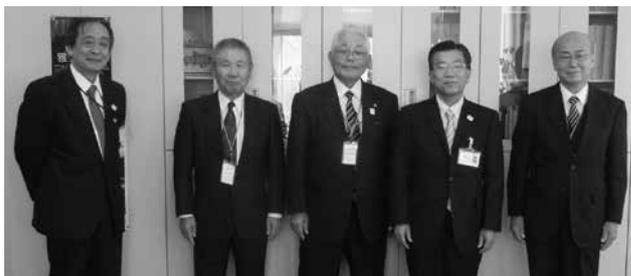
五、閉会の言葉

生涯学習部副部長

報告 — 東京都教育委員会

中井敬三教育長を会長が表敬訪問

秋晴れの平成29年11月21日、1年9ヶ月ぶりに、中井敬三東京都教育委員会教育長への表敬訪問が実現しました。この日、多田丈夫会長から平素の本会へのご指導、ご支援の御礼、本会の本年度の主要事業及び都教委との委託事業の経過と成果を説明。特に、迫る関プロ東京大会への教育長のご臨席を要請しました。教育長からは本会の存在を高く評価いただき、事業を通じてのさらなる連携・強化を約束されました。都庁第一庁舎からは、好天に恵まれ、都心を眼下に遠く霊峰富士、秩父連山等が一望できました。尚、本会からは、関プロ東京大会担当の桑原利夫副会長、三辻陽夫事務局長が同行いたしました。



『主体的・協働的に活動し続ける退職校長会を目指して』

「教育支援・社会貢献」と「会員相互の親睦と福祉」の活性化を求めて

— 第四十六回関東甲信越地区退職校長会 連絡協議会新潟大会の報告 —

平成二十九年全国連合退職

校長会 第46回関東甲信越地区

退職校長会連絡協議会「新潟」

大会が、去る10月12日(木)・13

日(金)の二日間、上越市のア

トホテル上越を会場に開催さ

れた。関東地区一都九県から

二十七名の役員、開催県から

二十三名と来賓十名の計六十名

の参加であった。東京からは役

員として多田丈夫会長、守屋龍

男福利厚生部長、視察団として

三辻陽夫事務局長、桑原利夫副

会長が参加した。

生憎、晩秋を思わせる小雨混

じりの寒さであったが、会場は

適度な暖房の下、協議会に相応

しい静寂の中で午後二時開会式

からスタートした。開会の言葉

を次期開催県「東京」の多田丈

夫会長が務め、開催県の新潟県

公立学校退職校長会 丸田 勲

会長の挨拶、続いて来賓として

新潟県教育委員会 池田幸博教

育長(公務のため課長が代読)

上越市教育委員会 野澤 朗教

育長、全国退職校長会 戸張敦

雄会長の祝意を込めた挨拶が続

いた。予定通りの三十分の開会

式が滞りなく終了。来賓退場を

含め十分間の休憩を挟み、同じ

会場で研究協議が行われた。

協議題は本原稿の標記に基づ

き、先ず司会の大会実行委員の

大竹 肇副会長から設定の趣旨

説明があった。その概略を示す

と、教育の動向として今次の学

習指導要領の改訂のキーワード

「社会に開かれた教育課程」カ

リキュラム・マネジメント」「主

体的・対話的で深い学び」の実

施は「…地域の人的・物的資源

を活用したり社会教育との連携

を図ったりすることが重要」

「…そのため、私たち退職校長

に多くの出番が求められ、活躍

の場はますます多くなる」と指

摘。このような状況下で、これ

からの退職校長会のあるべき姿

のキーワードは二つ。「一つは

『主体性』(各都県の本部及び

各支部が主体的に活動して初め

て会の活性化や高揚感が感じら

れるから)、もう一つは『協働

性』(会が「組織」として体を

成すことが必要であり、計画・

活動・評価・改善をみんなで共

有していると感じたとき、会と

しての一体性が生まれるから)

ということ、今大会は昨年の

群馬大会との連続性や発展性を

考えての協議題と副題を設定し

た」とのことであった。

この趣旨を踏まえて参加都県

が議題意識を共有し、「協議会

発表資料」に基づいて順次具体

的な取組を発表した。続いて協

議が行われたが、質問が一件、

協議題外の提案が一件で予定時

間となったのは協議の深まりと

してはやや残念であった。終了

後、別室で記念撮影。そして、

懇親会が午後六時から二時間、

二階「椿」の間で開催。協議会

から一転して参会者が和やかに

情報交換。新潟の地酒「銘酒10

蔵特設コーナー」が設けられた

りアトラクションも披露された

りして、相互交流の雰囲気も一

段と深められた一時となった。

翌日は研修見学。一階ロビー

に集合し、用意された研修用バ

スに乗車して目的地は二カ所。

一つは新潟県の偉人「日本の郵

便創始者 前島密記念館」、も

う一つは日本のワインぶどうの

父、川上善兵衛創業の「岩の原

葡萄園」とおよそ三時間の充実

した研修であった。閉会式は「高

陽荘」で行われ、13時に終了。

周到な計画での二日間であった。

さて、第47回は「東京」大会。

本部に実行委員会が組織され、

都退職校長会の総力を挙げての

準備がいよいよ開始された。関

係者の知恵を結集して臨みたい。

(文責 桑原 利夫)



業務改善・基金検討委員会「作業部会」からの報告
会則改正のアンケート結果と今後の取り組みについて

去る10月23日(月)の第2回

た。

- 支部長会で「会則改正のアンケートの中間結果」の資料をもとに5ブロックに分かれて意見交換を実施した。この支部長会での意見集約を参考に、12月6日の作業部会でアンケート結果を以下の5点に論点整理した。
1. 提案した4項目とも見解や解釈が分かれ、「会員の総意に遠く及ばない状況にある」と解した。
 2. 42支部が今日まで歴史と伝統を積み重ねられ、「これまでの支部組織を堅持したい」との考えが多くの会員に根強くある」と解した。
 3. 本音として各支部共、「現行の組織が日常的に充分に機能して何ら不都合を感じていない」との理解に至った。むしろ、いたずらな混乱は避けたいとの雰囲気を感じられ
 4. 提案した4項目の集計結果が90%以上に達してこそ、「改革の期待値と判断していた」がその域に達していないと解した。
 5. 小手先の改革でなく、会員の心を揺さぶる「大胆な発想の改革を欲している」と解した。
- 以上の観点から業務改善・基金検討委員会から提案された4項目は、会員からの部分的な賛意を得るに留まった。これを受けて、作業部会で「会則を含む業務の改善点15項目」―平成29年5月16日、教育フォーラム in 2017時の資料(1)会則についてを参照―の再検討を重ね、採用事項11項目、不採用2項目、検討事項2項目の結論を導き、具体的な会則改正作業を急ぐこととした。ここで、提案した4

項目を中心とした今後の会則改正素案づくりの方向性を明らかにする。

- (1) 「会員の所属改正」については、「選択制」を積極的に導入することとした。
 - (2) 「準会員制度の導入」は、会則の抜本的改革に繋がらず、また、この導入が直ちに、「会員の加入率一〇〇%」を目指すものではなく、劇的な変化は期待できないため、導入は困難と結論付けた。
 - (3) 「運営委員会の設置」は、その位置づけが分かりにくく、定着への混乱が想定される。したがって、現行制度を明文化するに留めることとした。
 - (4) 「評議員と支部長の兼務」については、条文の中に「…兼務することができる」に収斂することで現実的解決を図ることとした。
- 尚、予定している今後の取り組みは、次の通りである。

- ① 改正の基本的考え方と会則の
 素案作成……………(作業部会)
 - ② 会則素案の報告・了承……………
 (業務改善・基金検討委員会)
 - ③ 会則改正案の検討と作成
 ………………(正副会長会)
 - ④ 会則改正案の説明と報告
 ………………(支部長会)
 - ⑤ 会則改正案の提案
 ………………(評議員会)
 - ⑥ 第65回定期総会での新しい会則の承認
 - ⑦ 改正された会則の周知活動の実施
- 尚、「答申から本会の将来像を考える」をテーマに会則改正に集中して開かれた「第二回教育フォーラム2017」から8ヶ月が過ぎている。今後とも「会員の総意に基づく新しい会則の実現」に向けて着実に努力することを約束し、作業部会の中間報告とする。各支部長並びに会員諸氏の一層のご理解をお願いする次第である。
- (文責 部会長 多田丈夫)

入会のお勧め

総務部長 林 和明

総務部の諸活動の中で、最も力を入れているのは「会員の増強」である。

会員の減少は、近年特に激しい。平成十九年度に四七九八人在籍した会員も、平成二十七年度には、三三六二人、平成二十八年度には三一一人、平成二十九年度には、三〇七〇人となり、平成三十年度には、三千人を割ってしまうのは確実となっていました。

十二月四日「全国連合退職校長会と東京都退職校長会との連絡会」においても、会員増強が大きな課題であると話合われた。その時、全国連合退職校長会の資料として、七項目の「入会へのお誘い」があった。それは、
①人脈を生かし、「傾聴」に心がけながら個別訪問・学校訪問に努めよう。

②会報・全連退情報・リーフレッ

ト等を活用し、活動の理解に努めよう。

③地区ごとに魅力ある企画や対外的にも見える事業の推進を通して生涯学習の場として活性化を図ることに努めよう。

④現職との交流・懇談の機会をより一層活発にしよう。

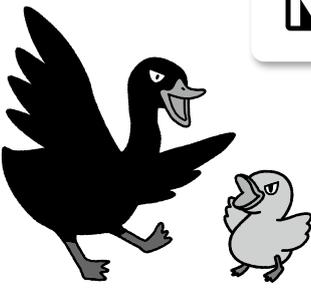
⑤早期に退職予定者の把握に努め、地域独自の「入会案内」を作成してみよう。

⑥現職を準会員・賛助会員とする制度を考えよう。

⑦全連退発行の図書・ホームページ等を活用しよう。

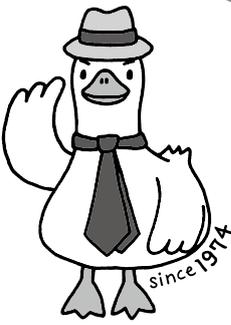
以上の七項目の殆どが、今まで私どもが実施していることである。この他、私どもが独自に行っている事は、この三月末で退職する校長先生方お一人おひとりに、年賀状をおくり、現在活発に活動しているクラブ活動を紹介し、東京都退職校長会の魅力を紹介している。

新登場



No.1 アフラックは
がん保険・医療保険
契約件数 No.1
平成28年版「インシュアランス生命保険統計」

●契約年齢●
0歳～
満85歳
まで



since 1914

がんをきむ
病気や
ケガの
備えに

**ちゃんと応える
医療保険**
EVER

心配な
「がん」の
備えに

**新 生きるための
がん保険** Days

■募集代理店(アフラックは代理店制度を採用しております) ◎商品およびサービスの詳細は「契約概要」等をご覧ください。

三泉トラスト保険サービス株式会社

0120-357-212

FAX 03-3233-6754

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-11-1

〈引受保険会社〉

「生きる」を創る。

Aflac

アフラック
東京第一法人営業部
〒163-0456 東京都新宿区西新宿2-1-1
新宿三井ビル19階
Tel.03-3344-1446 Fax.03-3348-0565

AF広宣課-2017-0005-1705004 1月16日

平成 29 年秋の叙勲受章会員瑞宝双光章

栄えのご受章お祝い申し上げます。 計 15 名 (敬称略)

- | | | |
|-------------|--------------|-------------|
| 水越 次男 (台 東) | 堀川 和夫 (足 立) | 森田 厚 (西多摩) |
| 井手 晃一 (大 田) | 橋詰 義昭 (日 南) | 長谷川 勝 (千葉北) |
| 大崎美代子 (北) | 亀山 昭三 (北多摩中) | 小宮 誠 (千葉北) |
| 主税 勇作 (北) | 内藤 十一 (府 中) | 齋藤 隆平 (埼 玉) |
| 根本 静枝 (練 馬) | 木下 守 (西多摩) | 小泉 博 (神奈川) |

高齢者叙勲受章者会員瑞宝双光章

(平成 29 年 12 月 26 日までに本部にご連絡のあった方々) 計 12 名 (敬称略)

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 後藤 榮 (荒 川) | 福田 保 (西多摩) | 阿部 三男 (千葉北) |
| 加島 直吉 (板 橋) | 小林 彰治 (千葉中) | 川上 次男 (千葉北) |
| 廣瀬 定弘 (練 馬) | 中村 道正 (千葉北) | 箱田 浩 (千葉北) |
| 開沼 恒治 (八王子) | 鶴岡 忠克 (千葉北) | 渡邊 喜盛 (埼 玉) |

湯島の動静

- | | |
|--|---|
| 12月 | 11月 |
| 4 全連退との懇談会
(三階会議室) | 1 福利厚生部会 |
| 5 福利厚生部会 | 6 正副会長会・企画委員会合同
会報部会 |
| 6 社会保険施策合同委員会
業務改善・基金検討委作業部会
《短歌クラブ》 | 9 《短歌クラブ》 |
| 8 採用前講座Aコース全体会 | 10 生涯学習部会 |
| 10 採用前講座Aコース学校訪問
関プロ準備推進委員会 | 13 会報部会 |
| 11 関プロ準備推進委員会 | 14 人材バンク委員会 |
| 12 関プロ準備推進委員会 | 15 総務部会 |
| 13 関プロ準備推進委員会 | 16 会計部会 |
| 14 関プロ準備推進委員会 | 17 採用前講座事前説明会
(都教職員研修センター) |
| 15 関プロ準備推進委員会 | 21 都教育長中井敬三氏表敬訪問
第二回会員研修会
(三階会議室) |
| 16 関プロ準備推進委員会 | 22 採用前講座事前説明会
(都教職員研修センター) |

- | | |
|---------------------------------|------------------------------|
| 1月 | 12月 |
| 9 企画委員会 | 17 総務部会 |
| 10 福利厚生部会 | 18 採用前講座Bコース全体会 |
| 11 業務改善・基金検討委作業部会
会報部会 | 19 採用前講座Bコース学校訪問
人材バンク委員会 |
| 12 人材バンク委員会 | 20 会計部会 |
| 13 《短歌クラブ》 | 22 企画委員会 |
| 14 採用前講座Cコース全体会 | 23 生涯学習部会 |
| 15 採用前講座Cコース学校訪問
生涯学習部会 | 24 企画調整部会 |
| 16 総務部会 | 26 会報部会 |
| 17 正副会長会・企画委員会合同
支部長会 | |
| 18 福利厚生部会 | |
| 19 第二回外部人材活用連絡会
(都教職員研修センター) | |
| 20 新年懇親会 | |
| 21 (東京ガーデンパレス) | |
| 22 都教委との懇談会(都庁) | |
| 23 会報部会 | |
| 24 会報部会 | |
| 25 会報部会 | |
| 26 会報部会 | |

支部だより

支部会報60号奮闘中

新宿支部長 廣澤 義夫

本支部は四年後に60周年を迎える。東京五輪後の節目の周年行事を仕切るのは誰なのか。その時、一足先に発行した60号がどの様に評価されるか。年一回発行の筈なのに何故、号数がずれているのか。50周年記念誌を調べたところ、昭和51年の11月に、創刊号が発行されたところ。その二年後からは年二〜三回の不定期発行だった。現在は年八回の支部役員会報告と特別号及び総まとめの支部会報を入れて、十回位の配布物を定期的に各会員宛に手配りしている。(60号は30年3月に発行予定である。)

さて支部組織について60号に載らない部分の紹介と支部行事の特徴に触れておく。本支部は設立当初から都の退職公務員連盟新宿区支部と連携してきた。その具体的な例が昭和57年11月

の記録に残っていた。それ以後毎年共催し、今は退会連と退会を一人の支部長が兼務している関係で支部行事は運命共同体として互いに協力する伝統がある。都へ納入する会費が別々の為に会計担当者だけは二人制にしてその他の役割分担を九名の役員(男性五名)で助け合っている。

年間の定例行事は六月の総会と懇親会、十月の特別研修会、一月の新年懇親会、三月の会報発行の四つである。数年前より千代田・中央と文京の三支部で合同の研修を企画し歩行会や見学会を実施してきた。新宿は年一回のみ区立歴史博物館の特別企画展に他支部を招待することで交流を深めている。(写真)

その他に事務的な会合があり総会前の名簿と要項の準備や年度末の会報発行の際は役員だけでなく会員有志の応援も要請する。もう一つの特徴は新宿区教育懇

談会の存在である。区内幼小中の校長は退職するとほとんどの人が会員になる。都ではB会員と呼んでいるが昔から新宿支部とは協力関係にあり二百人を超える会員の力強さを感じている。

特に都教委からの委託事業では新宿区の協力校が増え、支部長として多くの方のお力添えに感謝している。

最後に私が13年も支部長を続けられたのは支部会員と役員の励ましに支えられたからである。支部の伝統を守りつつ健康に不安がある現在の立場は責任が重く世代交代を急ぐ毎日である。



新宿支部研修会・新宿歴史博物館・平成29年10月13日

魅力ある支部活動の模索

北多摩北部支部長 阿久津州美男

本支部の10年前の会員数は百八十名程であった。だが、それでも当時の大野耕支部長は会員減少が大きな課題で、平成元年度頃は入会率約80%、十八年度は49%の減少と、会報に数字を挙げ課題を示している。

その本支部は入会率が高く、本部でも評価されてきた。特に、片岡敦子前会長の頃は、入会者数でも、また採用前研修や人材バンク事業でも先導的役割を果たした。更に、都の会歌・北部支部の歌等を歌い、会を盛り上げてきた。これらの活動は全都支部として知られている。歴代の支部長や役員、会員各位の理解と協力の賜物であり、深く感謝している。

しかし、現在では、入会者はごくわずかで、会員数は百二十六名と激減。この課題の

解決と、魅力ある会への模索を目標に活動している。

まずは組織運営の活性化。前例踏襲でなく、「前例に無いからやってみよう」の気概で活動。

次に、本部と一体化した情報伝達と活動。例えば、今回の名簿配布についても流失や取扱注意等を役員会で伝え徹底を図る。また、採用前学校体験や教育庁人材バンク事業等についても、本支部都理事伊地企画調整部長から直接伝え連携を密にしている等々。



それにも増して、入って来て良かったと実感できる活動は、研修会や懇親会等の会員同士の親睦と交流です。今年の研修会は平林寺の見学。学識豊かな中村事業部長等の計画で、宗教的情操に触れ、参加者は皆大満足でした。また、暮れには、役員会後に親睦会を行い、大いに盛

り上がりました。更にはこれこそ本会独自の活動ですが、88歳の長寿者には、一年前に叙勲の意思表示を最終学校等に連絡する等の情報提供と確認をします。すると、「忘れていた、生涯会員を継続し後輩に伝えていく」と感謝の手紙が来ます。これからも力を合わせ、『魅力ある支部活動の模索』を続けていきたいと思っております。



退職校長会・北北支部研修会・平林寺 2017.10.05

会員の得意技と地域の要請を生かして

千葉県支部長 渡辺 弘

現在の会員数は、四十二名である。本支部は、地理的な居住地の広がりからいえば、北は成田市・香取市、南は鴨川市・いすみ市、東は旭市・茂原市、西は千葉市・市原市等に及び千葉県全体の八割の土地に広がる。

会員が広く散在しているということは、会合ひとつものにも、連絡・連携を確実にして準備すること等に十分に配慮する必要がある。

こうした不自由さを逆手にとり、支部活動を生き生きとしたものにするために、担当する役員を複数制にすることや、役員相互の人間関係を深める活動を取り入れる等の工夫を加えている。

一 自分の経験を述べ、生き方を語ることに

「会員は、誰もが貴重な校長経

験をもつ人的財産である」という考えに基づく研修活動を実施してきた。毎回提案者として自分の選んだテーマについて一時間程度トークをする。その後参加者の質問・感想を含む懇談を深めて互いに触発し合う。

- 次のようなテーマが語られた。
- ・破戒のモデル・大江磯吉
- ・未完成の美しさ・生涯学習
- ・郷土の歴史探訪・上総国分寺国分尼寺を中心にして
- ・新時代の子育て支援と保護者の役割
- ・伝統朝顔の栽培について
- ・妻・母・教師としての私

二 地域の要請に応じた活動を展開すること

会員の多くは、培われてきた能力や人柄に応じて、地域社会の期待や主体的な取り組みに取り組んでいる。

次のような会員がいる。

○地元神社の氏子総代として、祭礼の際にお祓いをしたり、伝統郷土芸能の伝承にかかわ

り、地域住民のまとまりを創りだしている。

○地域支え合い活動の代表として、ふれ合い・助け合い・見守り合いに関わる食事会・作品展・ミニFM放送等の具体的な活動を実施している。

○成田山新勝寺のボランティアガイドとして応募し、学習を深め、地域への愛着をもって境内・近隣についての案内をし、好評を得ている。

○地域ボランティアとして、認知症の人との接触を通して、多くのことを学び、今日では「孤独死」の問題で、人の命と霊との狭間で悩んでいる。

三 校長として勤務したこと誇りを持ち続けたい

私たち会員は、紛れもなく校長であった。だから、聖人君子の人生を送れと言っているのではない。多様な個性・能力を相互にかかわり合わせながら、本支部の活動に生かしていきたい。

「さきたま会」の活動

埼玉県支部長 清水 豊

埼玉県支部は、昭和四十六年に創立し、昭和六十二年に親しみのある「さきたま会」と改称されました。三年後には大きな節目、五十周年を迎えます。

本年度からはその周年記念行事に向け、年間の様々な活動で、その意識を高めています。

会員数は、本年度二二一名でスタートしましたが、本支部の会員も減少の傾向にあります。

ご存知の通り、埼玉県は大変広域になりますので、本支部を東部・県央・中部・西部の四ブロックに分割、更に県央ブロックを中央地区と県南地区に分けて五地区に分かれてそれぞれ活動しています。役員及び地区幹事、クラブ長で構成される「幹事会」を定例開催し、連携を密にしています。支部は各地区を包括統合して、本部・支部の会報等を配布し、より親密な親

睦・互助・情報交換・伝達活動の活性化に努めています。

○埼玉県支部だより

「さきたま会報」が百号に！

会報は前期（十月）と後期（三月）の年間二回発行しています。今年、後期は百号記念会報になり、広報部が工夫しています。

会報は、近年はA四判に拡大、読み易くなり、支部の様々な活動が居ながらにして良く分かる紙面になっています。

前期号では、本年度の総会の様子を進行に従って、詳細に記録され、参加できなかった会員にも本年度の総会の様子、活動内容を如実に伝えていきます。

○「各ブロック懇親会」

本支部は地理的に東西に広域で、全体で一堂に会することが困難なため、各ブロック・地区ごとに年一〜二回懇親会が計画され、支部役員・幹事会も各ブロックの懇親会を順番に訪問させて頂き、美味しく・愉しく懇談し、絆を深めています。

○「一泊懇親旅行」

生涯学習部が全域の会員に声掛けし、山紅葉の映える良い季節に企画、実施しています。

今年も埼玉・秩父路へ二十一名、女性も三名参加「楽しく・美味しく・思い出多い旅行」を掲げ、親睦を深めました。

○「クラブ活動」は五つのクラブがあり、同好の士が集いそれぞれ技を披露、伝授され和やかに親睦を図っています。

・ゴルフクラブ（十三名）
・園芸クラブ（十七名）
・囲碁クラブ（十三名）
・陶芸クラブ（十七名）
・ハイキングクラブ、別称「遊湯あるこー会」（十五名）と、県全域から集い、意欲盛んな趣味・交流の会となっています。

今後も本支部の様々な活動に大勢の参加に創意工夫を凝らし、会員相互の絆を深め、支部の維持・存続、更に発展を図りたいと考えています。

米寿会員の声

常に好奇心を持ち

心にときめきを

目黒支部 本多 孝一郎

平成二十九年七月に八十八の誕生日を迎え、家族が集まり、米寿を心から祝ってくれました。また、十数年間お世話になった会の皆さんより心温まる祝意と記念品を頂き、感激いたしました。

元気で米寿を迎えられたことは家族を始め、関わりを持った多くの方々の支えがあつてのことと感謝の気持ちで一杯です。私の第二の人生は嘱託の仕事が終わり、古希を迎える数年前からです。古希は中国の詩人・杜甫の「人生七十古来稀」の句にちなみ、長寿の祝いとして残っているようです。しかし、長寿社会になり、七十を迎える人は稀ではなくなりました。その頃、少しでも地域に奉仕できればと思い、絵手紙に関心

を持つ中高年女性の集まりと老人クラブで、絵手紙制作の手ほどきをしてきました。絵手紙は「下手でいい・下手がいい」「つたなさが魅力になる」と言われていましたので、気楽に楽しんで遊び心を持って十数年続けてきました。毎回計画を立て、材料を調べ、手ほどきのポイントを考える。そこには責任感と共に楽しさがありました。野口雨情が言う「侏楽無死」(遊び楽しむば老いはない)の気持ちで生活していたような気がします。「常に好奇心を持ち・好きなものに取り組む」「ときめきは長寿の秘訣」等、高齢者向けに書かれたものを見かけます。すてきなものを見たり、聴いたり、読んだりした時の高揚感、心ときめくものがあります。米寿を迎え、改めて好奇心・心のときめきを大切に、明日に向かって歩んでいこうと思えます。

105歩のマーチ

町田支部 大野 福二郎

もう米寿になったかと自分自身驚いて原稿を書いている。

退職して地域のシニア仲間若い若いといわれ、自治会や地域連合会の役員、集会所の建設、健康体操など趣味活動にかかわって来たのが昔話になってしまった。

さて、十一年前、私の余暇活動のグループ「東京を歩く会」会員130名、月一回東京都内、近県の名所旧跡を探索する」の会員の皆さんが165歩のマーチと銘打って祝宴を開いてくれた。私が77才の喜寿、もう一人の88歳米寿の岡田一郎氏、二人合わせ165のお祝だとの発想である。

100まで生きると言っていた元氣だった岡田一郎氏は数年前に亡くなられたが、品川区教育委員を長くされ、大森貝塚記念館、品川区歴史館などの創設に尽力、地域を愛し、地域に奉仕した立

派な人だった。現代版宮沢賢治と私はいいたい。私は岡田氏の足元にも及ばない人間だが、少しでも岡田氏に近づけたらと思っている。同窓会長でもあった品川区立大井第一小学校の片隅に岡田氏発案の120周年記念の『杜の哲学者みみずく像(伊藤 傀先生作)』が児童を見守っている。学校へ何う度に、みみずく〓岡田氏にお会いしてくる。

奇しくも、私が教師になって最初に勤務した学校(練馬区立開進第一小学校)で受持った子が、現在77という手紙を何十年ぶりか一週間前に頂いた。近い内に、ミニ165歩のマーチを再現したいと考えている。

携帯電話も子どもと孫の連絡に使うだけ、赤や青のランプ、いたずらメールにおろおろしている88である。両親から頂いた命をこれからも大切に頑張って生きて行こうと思っている。

米寿を迎えた仕合わせ

調布支部 大澤 俊子



皆様のお陰で米寿を迎えることができました。十月三十日に

は都庁の教育委員会で教育長より賞状と瑞宝双光章をいただきました。また調布市退職校長会総会では、全国退職校長会、東京都退職校長会、退職公務員連盟より賞状と記念品をいただきました。有難うございました。私は昭和二十四年三月に東京第一師範学校を卒業しました。

府中町立第二小学校に勤務しました。新宿区立牛込仲之小学校で教育実習をした折の素直で明るい四年生の子どもたちが忘れられず、校長先生に「四年生を担任させてください。」とお願いし四年四組の担任になりました。私が二十歳、子どもたちは十歳でした。学年の先生方が親切に指導してくださり楽しい

日々を過ごすことができました。

現在も当時の教え子たちが懇親会を開き楽しいひとときを過ごしています。

十五年間勤めた府中第二小学校をはなれ、調布市立富士見台小学校、新宿区立西戸山小学校、淀橋第六小学校に勤務し、練馬区立関町小学校で校長を勤めさせていただきました。素直で明るい子どもたち、教育熱心な先生方、主事さん、地域、保護者の方々からあたたかいご支援、ご協力をいただき無事退職することができました。

西戸山小学校、関町小学校で国際理解教育の研究を続けてきたことが今も心に残っています。四十一年間の教職生活は楽しい日々でした。現在は調布市で退職校長会、退職公務員連盟の一員として皆様のお世話になり感謝の気持ちでいっぱいです。今後も健康に留意し、明るく楽しく生きていきたいと願っています。

米寿に想う

神奈川支部 新井 秀一

台東区を振り出しに、北区、練馬区で六つの小学校に勤めました。どこでも良い先達に恵まれ、一校毎に教師として大きく成長しました。

三十九年間の勤めを全うした後は、練馬区教育委員会の再雇用で教育センター教育相談室での教育相談に関わりながら、保護者として、非行少年等の更生に携わってきました。それらを総て終えて、妻の病氣介護に専念するため横浜へ転居しました。教育の途を歩いて来て米寿。

そうなるには、私の幼少年期の生き方が、深く関わっています。山深い農家の八人兄弟の七番目に出生。その時から「お前は東京の子」と言われて育ちました。母の子供の頃の弟に対する贖罪を担う運命を負って生まれたのです。分教場の小一の三期、東京の親の迎えで、台東区の小学校へ転校。学校も生活も

一変、その日暮らしの日々となりました。三年生の時、正式に現姓になりました。卒業後は高等科へ進みますが、学費のかわりに三年制の都立商業へ行かせて貰いました。肩に負う重い宿命を知ったのは、その頃です。これ以上の進学は絶望的でしたが、官費負担で勉強できる豊島師範学校を探し、予科を受験、合格して入学、寮生となりました。

戦争末期で、学業は殆ど無くしかも東京大空襲で校舎も父母の居る家も焼野原となりました。実家のある長野県の師範学校へ転校が許可され、そこで六年間の勉学を修了、最後の師範学校を卒業し、教師になりました。どんな人でも、歳を重ねれば米寿を迎えます。私は生まれながらの宿命を処理しながら、選んだ教育の途を全うして今日に至ったことに、深い想いを抱いています。



【報告】 東京都教職員物故者追悼式について

〜びびりです〜

第60回東京都教職員物故者追悼式が平成29年10月16日(月)午前11時より、多磨霊園内東京都教職員慰霊塔前で行われました。小雨降る中、今年には物故者七五五名の教職員のご遺族が参列されました。東京都教職員互助会理事長の式辞に始まり、全員で黙祷を捧げ、東京都教育委員会教育長とご遺族代表が追悼のことばを述べた後、20数名の来賓者と参加者全員が慰霊塔前で厳かに献花を行い、本年度の式が終了いたしました。毎年、東京都退職校長会会長も来賓として列席いたします。さて、この教職員慰霊塔は、大正15年9月に時の東京市小学校教員会が構想を練り、昭和2年から浄財と拠出を行い、建立の候補地の中から昭和11年の秋、多磨霊園の地に決まりました。霊園内に29坪の墓地を確保し、廟堂の建設後の昭和15年12月に盛大な慰霊祭が挙行され、東京都小学校教員会

の物故者二七八九名が廟堂地下に納められました。戦後は、東京都小学校教員会の解散に伴い、慰霊祭も一時中止され、昭和36年7月に復活。社団法人東京都教職員互助会に移管され現在に至っています。また、昭和48年までは神式による玉串を捧げていましたが合祀対象者の遺族の意見もあり、昭和49年から無宗教の色彩を強め、ご遺族の方々には献花をしていただくことになったとのことです。式典も合祀祭から追悼式に改め今日に到っております。昭和15年12月の第一回追悼式から今日まで三三二八〇名のご尊名が納められております。毎年開催されるこの追悼式は、先人の築かれたご遺業を受け継ぐことをお誓いし、物故者の方々のご冥福をお祈り申し上げる式として今後とも引き継がれてまいります。

(文責 会長 多田丈夫)

東京都退職校長会会員の皆様へ

昭和51年4月に東京都退職校長会の会員の皆様の福利厚生の一環として団体契約を頂戴しております。会員ご本人様はもとより、ご家族、ご親戚の方々もご利用いただけます。

事前相談
どんなに些細と思われることでも
お気軽に

ご葬儀
寝台自動車、火葬場
式場、供花・枕花の
お手配

**ご法事、
葬儀後の
お手続き**

家族葬から音楽葬など、あらゆるご葬儀を承っております。年中無休・24時間体制、どのようなことでもご相談ください。

フリーダイヤル ☎0120-849544 をご利用ください。



経済産業大臣許可(五)第3066号
株式会社

東京都民互助会

東京都民互助会

検索

<http://www.tomin-gojyo.co.jp>

〒167-0042 東京都杉並区西荻北5-1-8 TEL.03-3396-7231 FAX.03-3395-8874

(平成29年12月19日届出現在)

物故者																
謹んでご逝去を悼み ご冥福をお祈り申し上げます																
氏名	年月日	支部名	校種	年齢	名簿頁											
山口 重雄	29・7・9	日南高専	87	56		山田 映一	29・10・12	北多摩西	小	95	95					
守屋 健	29・8・1	八王子	87	45		武井 照明	29・10・18	世田谷	小	83	22					
河西 泰道	29・8・21	千葉中部	80	87		倉持眞由美	29・10・19	江東	中	67	7					
北村 孝夫	29・8・28	日南	89	54		秋元 宣明	29・10・20	北多摩北	小	85	59					
武笠 良三	29・8・31	神奈川	97	106		野村 竹治	29・10・22	西多摩	中	85	78					
近藤 睿	29・9・9	葛飾	89	38		小林 祐二	29・10・22	目黒	小	86	9					
武内 裕	29・9・10	西多摩	85	104		川崎 栄一	29・10・27	練馬	小	93	33					
葛原 龍光	29・9・12	葛飾	99	51		銀林 重信	29・10・29	神奈川	高	91	106					
佐藤 晴也	29・9・17	千葉西部	88	114		五十嵐典子	29・11・9	板橋	小	89	27					
村杉 隆正	29・9・19	武蔵野三鷹	95	74		嶋岡 道夫	29・11・10	世田谷	小	88	18					
奥山 信悟	29・9・19	世田谷	88	21		安藤 肇	29・11・14	目黒	中	94	9					
神崎 安夫	29・9・23	神奈川	81	102		赤松 旬	29・11・17	葛飾	小	81	40					
田村 康弘	29・9・25	葛飾	71	53		長谷川平四郎	29・11・21	杉並	中	88	20					
廣岡 六衛	29・9・30	北多摩北	89	80		林 春紀	29・11・25	八王子	中	82	46					
金光 佳男	29・10・6	杉並	96	27		武内 宗一	29・11・25	神奈川	小	71	105					
納田新八郎	29・10・6	杉並	90	26		水越 孝	29・11・26	北多摩西	小	81	71					
						田中 俊夫	29・11・27	八王子	小	90	42					
						行徳 高德	29・11・29	神奈川	小	86	101					
						杉江 由里	29・12・5	狛江	高	93	70					

物故者



応募コーナー

短歌

コマのよう赤黄色の傘回し
長雨降る中女兒ら帰り行く
傘横に強雨に向いて帰り行く
子らの姿の(一年生)たくましく見ゆ
打ち叩く驟雨激しく雨の音
傘に運びて子ら帰り行く

中野支部 田中弘志

スキー板の表札掲げし君が家の
防空壕に籠り軍と青春と

その昔兄を苛めし腕白を
叱るは曾祖母光る眼差し

子守りつつ学舎窓を覗きては
ユウの名得しとう無学の母は

府中支部 和知光儀

次回の応募コーナーは200号記念
特集のため休載します。



編集後記

明けまして、おめでとうござ
います。平成三〇年の幕開けで
す。

昨年も明るい話題が少なく、
内外共に人命に係わる大きな事
件が相次ぎました。外国ではテ
ロ、日本では自然災害や交通事
故による犠牲者が、更には北に
よる脅威が紙面を賑わせました。
然し、最後に、シャンシャン
の一般公開が皆の心を和ませて
くれました。

さて年明けの会報一九九号を
お届けします。会長の挨拶の後、
採用前指導力養成講座の報告、
第二回研修会報告、関ブロ新潟
大会報告、業務改善作業部会経
過報告が掲載してあります。そ
の他、支部だよりや、会員の声
として米寿会員の声の特集しま
す。ご意見やお便りをお寄せ
ください。

(佐藤 忠三)